

第 1 回 令和 8 年 9 月の大雨に対する河川整備の効果検証会議

次第

日時：2026年9月30日（水）

午前10時から

場所：愛知県本庁舎 3 階特別会議室

1 開会挨拶

愛知県

2 議題

（1）東海豪雨の降雨と被害状況

資料 1

（2）東海豪雨後に進めてきた主な河川事業の概要

外水氾濫対策および内水氾濫対策について

資料 2－1

【中部地方整備局】

資料 2－2

【愛知県】

資料 2－3

（3）9 月 8 日大雨の降雨と被害状況

【名古屋地方气象台】

資料 3－1

【中部地方整備局】

資料 3－2

【愛知県】

資料 3－3

（4）河川水位による河川整備の効果の確認

【中部地方整備局】

資料 4－1

【愛知県】

資料 4－2

（5）効果検証の方向性及び今後のスケジュール

資料 5

3 閉会挨拶

中部地方整備局

令和 8 年 9 月の大雨に対する河川整備の効果検証会議 開催趣旨

近年、気候変動の影響等により激甚化・頻発化する水害に対応するため、流域に関わるあらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」の推進が重要となっている。その中においても、浸水被害を軽減する上で、河川の流下能力を向上させることは治水対策の根幹であり、そのための河川整備を着実に推進していくことが不可欠である。

本年 9 月 8 日の大雨では、名古屋市で 1 時間最大 104.5 ミリを観測し、2000 年の東海豪雨時の 97 ミリを上回る記録的な降雨となったが、このような非常に厳しい降雨条件の中においても、東海豪雨時と比較して浸水被害が大きく減少する等、東海豪雨以降に実施してきた河川整備が大きな効果を発揮したと考えられる。

また、河川整備による流下能力の向上は、河川からの氾濫を防止・軽減するだけでなく、河川水位の上昇を抑え、排水機場による内水排除を支えるとともに、流域からの雨水を河川へ受け入れやすくするなど、内水被害の軽減にも寄与するものである。このことから、河川整備の効果について、新ためて検証することが重要である。

そこで、本会議では、河川整備に焦点を当て、9 月 8 日大雨を対象として、実測水位や河川管理施設の稼働状況等からその効果を確認するとともに、再現計算等により河川整備の効果を検証する。あわせて、様々な降雨パターンに対する河川整備効果についても検証を行う。

さらに、河川整備による浸水被害軽減効果を分かりやすく可視化し、その事業効果の見える化と周知を一層推進することにより、今後の効果的な治水対策の推進に資することを目的として、本会議を開催する。